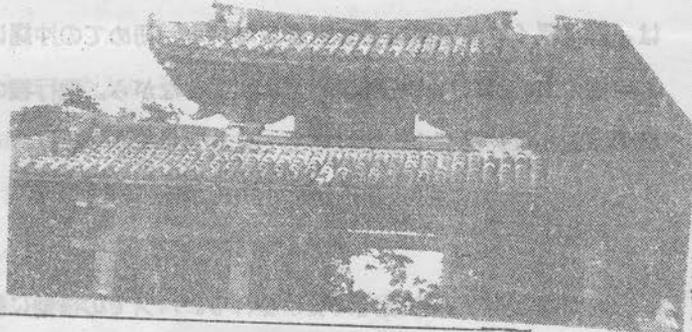


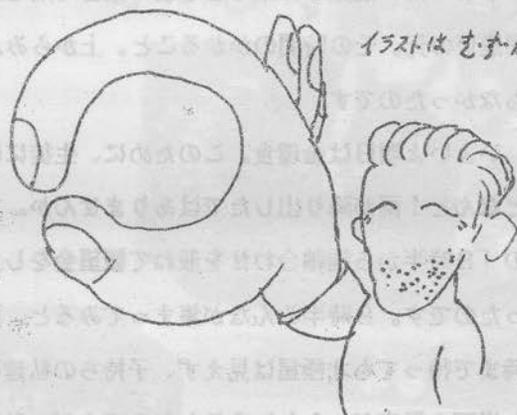
星屑

No153

1987年9月



沖縄へ行くとこれが飛んでいく。



イスタはまつかい!!

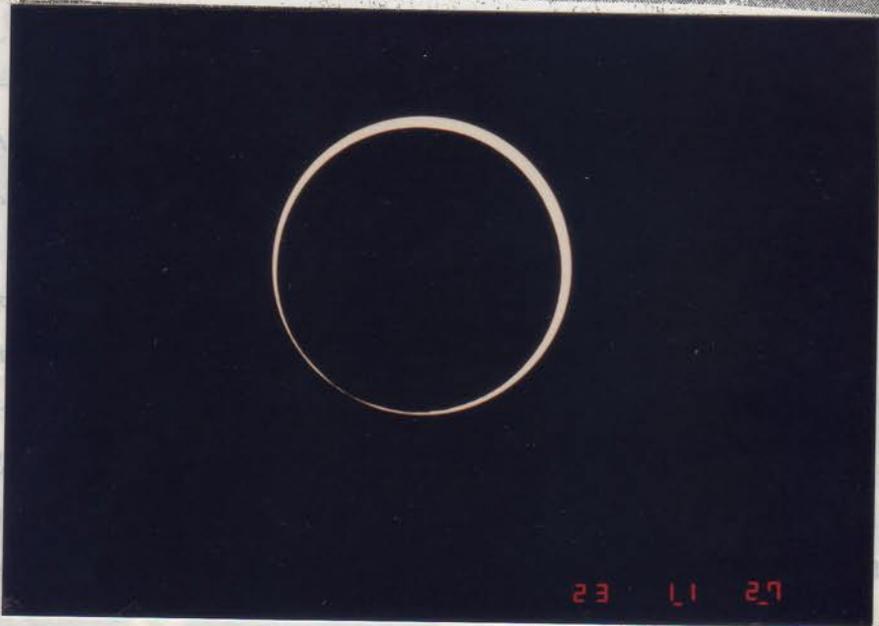
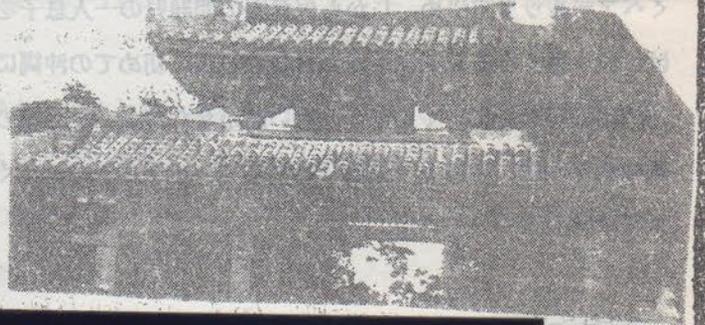
必ず写真をはって下さい。



星 齊

No153

1987年9月



23 11 27



沖縄金環日食ツアー

T. NAKASIMA

「やったー。」「丸くなったよー。」「あー！もう終わった。3分じゃ足りないよ。せめて5分はいるよ。」そんな声が聞こえる中、今度の金環日食ツアーは大成功。しかし前日まではそうは行かなかったのです。

9月21日12時30分、交通センターに集合したのは19人。私達は、夫婦ではずかしげもなくベアールックで決め、しかも保育園の問題児の一人息子を連れての参加。福岡までのバスの中では、段々悪くなる天気やきもきしながら、初めての沖縄に思いを馳せていました。子供には、夢と希望の南の島にいくんだよと言いつつ聞かせながら。飛行機の中からは、雲ばかり。そして着いた沖縄のホテルは、最高！子供は初めて見る”ホテル”にびっくり！！観測の条件も最高です。後は天気だけ。

9月22日。1日中観光に明け暮れる。バスでの移動に疲れる。しかしさすがの南の島、きれいな花が咲き乱れ、しかもきれいな海。でも泳げない！この日、海洋博記念公園で、我が家はみんなに大迷惑をかけてしまった。観覧車に乗るとき既に集合時刻を過ぎていたのに「なーん、よかよか」と乗ったのが間違いの元。その時間のかかること。上からみんなが待ってる様子がよく分かるのに、どうしようもなかったのです。

さてその日の夕方、いよいよ明日は金環食。このために、生徒には自習をさせて、休みを取って参加したのに、なんとなんと！雨が降り出したではありませんか。でもそんなことにめげないツアーの面々。宮本さんの「9時半から極軸合わせを兼ねて観望会をします。」という声でいそいそと部屋え引き上げて行ったのです。9時半みんなが集まってみると、雨は上がり、星も点々と見えています。しかし11時まで待っても北極星は見え、子持ちの私達は部屋えと引き上げました。ところが、2時になると満天の星空だったということなのですが、私達が知るはずもありません。

9月23日。金環日食 快晴 気温高い

5時に目を覚まし、空を見ると快晴。すぐにカメラを持って、二人で部屋を出る。3200をつめて撮りまくる。カノーブスが、ホテルの屋根より遙かに高いのにびっくりする。その時、ホテルの1室から、「やったー、晴れたぞ！みんなで万歳するぞ。せーの、万歳！万歳！万歳！」という

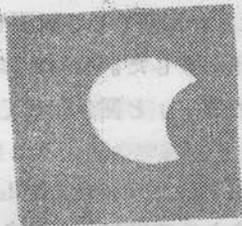
声が聞こえてきたのです。こうして、23日の朝は、さすがに騒々しく明けたのでした。

朝食もそこそこに、望遠鏡やカメラを担いでうろつく人が多い中、我々も準備にかかりました。芝生の庭の一角に並んだ我々は、それぞれに機械を据え付けて、太陽を見つめています。空は完ぺきな青空で、この時「あー、来て良かった。」としみじみ思いました。何でも熊本の方は曇っているとの事。第1接触までの長いこと。しかも、後は10分おきにシャッターを切るだけの単調な作業で、金環食になるまでのまちどろしい事といったらなかつた!

そして、とうとうその瞬間がやってきた。やった!金環食!沖縄までやってきた甲斐があったぞ! シャッターの音が響く中、3分50秒は過ぎていった。後は、何だか気が抜けてしまったようでた、惰性で10分毎にシャッターを切るだけだった。

何にしても、今回の金環食は運に恵まれていたというほかない。それにしても、このツアー、本当に金環日食観測ツアーだったのだろうか?疑問が残るツアーだった。観光も十分に楽しんだし、楽しんだ旅行だったな!次は、ハワイの皆既日食か、来年の小笠原か・・・みんなで4年後のハワイでの再会をやくして、別れたのでした。

それにしても、添乗員の東さん、本当にお疲れ様!今度は、息子もしつけをしっかりとっておきますので、次回もよろしく!



中島 弘親 子 氏



今回のツアーの面々

表紙写真

撮影者: 宮本幸男氏

65mm フロライト

f-1000mm 1/250s

私が、沖縄行きに誘われたのは夏休み中のことでした。夏のバイト代が、ぶっとんでしまうのを覚悟して沖縄行きを決めました。

熊本を出発したのは、9月20日の夜明け前でした。メンバーは、渡辺さんと芳野さんと福岡さんそして私の4人です。美しい星空の中、快速に三号線をさかのぼり、福岡空港へ。それから、日航機で那覇へと向かいました。この日の天気は上々で、地上が良く見えていました。しかし、残念なことに沖縄本島は雲に包まれ、那覇空港に着陸した私達に沖縄の太陽は姿を見せてくれませんでした。とりあえず、一行は、本島を離れケラマ諸島の座間味へ渡りました。この時、利用したセスナは、定員10人の小さなもので、ちょっとしたスリルを味あわせてもらいました。旅館（実はほとんど民宿）に到着後、さっそく泳いだのですが、やはり沖縄の海はきれいでした。

翌日には、嘉比島に渡り、泳ぎました。まだ沖縄上空に雲は広がっていましたが、泳ぐには十分の暖かさでした。そして、なんとか沖の方まで出て行けるようになった私はとても感激してしまいました。美しい珊瑚の間を色鮮やかな熱帯魚が泳ぎ回っているのです。こんな光景を自分の目で見るができるなんて、わざわざ沖縄まで来たかいがありました。

とはいっても、泳ぐことばかりに気をとられていたわけではありません。今回の再重要目的は、金環日食○！しかし、あいかわらず曇っていて、時々雨までばらついていました。天気予報を見ても、なぜか沖縄だけには雲がかかっていた。さすが傍Y先輩の雲をよぶ力はすごいものだと関心しつつ金環当日だけは、その力が発揮されないことを望むのでした。

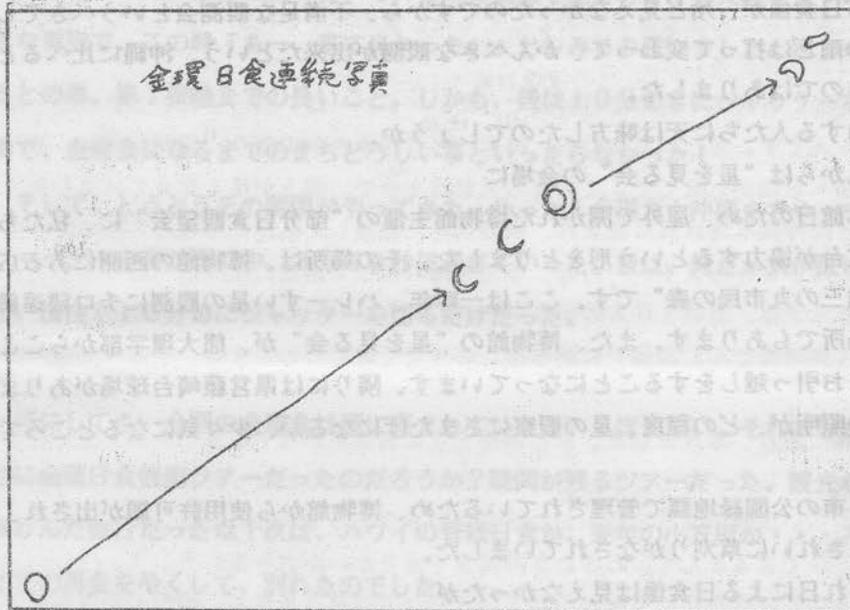
翌22日は、少し座間味島を観光した後、再び那覇へ。都合により那覇でしか観測できなかったのです。心配される天気は一向に回復せず、夜には雨が降り出しました。もしかしたら金環はダメかも知れない。いざという時は「沖縄には観光に来たんだよ。」と開き直ってしまおう、という計画まで立てていました。

ところが、当日23日の朝、なんと青空が見え朝日が輝いているではありませんか！しかしまだ雲があり、完全に晴れているというわけではなかった。もしもの時は観光できるように首里に行くことになりました。嬉しいことに晴天は続き、守礼の門のそばの運動場に観測場所を決めました。写真撮影のための準備をしている間にも刻々と日食開始の時間はせまり、私の場合、用意が整ったのはぎりぎりの時でした。

写真を撮っている最中、なんと言っても緊張したのは金環になろうというその瞬間でした。接触の時には月のでこぼこによる環のとぎれがしっかりと見え、完全な金環となりました。ところがいざシャッターをきろうとすると雲がやって来たのです。もしも、ここで金環を撮ることができなければ写真はただの部分日食になってしまうのです。あせりました。何とか金環中に撮ることができましたがズレてしまいました。残念です。金環も終り、だんだんと太陽が元に戻っていく途中で雲がやって来ました。なかなか雲が切れそうになかった。そこで観測を中止しました。

那覇から福岡までの飛行機からは、行きと違って雲しか見えず、熊本では日食はみえたのだろうか？と思いながら疲れた体で熊本へ帰ってきました。

天気には、はらはらさせられましたが、結局は金環を見ることができ、海水浴までして、今回の沖縄行きは大成功だったと思います。



撮影者
村上 智恵子

9:50 ~ 12:20

5分おきに撮影

f = 28 mm

さて、写真撮影の結果ですが、ほとんど素人同然の私としては、大体満足しています。連続写真を撮るのは初めてで、わからないところは先輩方に教えてもらいました。ところどころ抜けていますが、これは雲のせいです。本当に惜しかったです。とにかく、私なんかを沖縄に連れて行ってくださった先輩方にとっても感謝しています。再度沖縄には行きたいと思います。

—— 筆者紹介 ——

熊大文学部史学科1回生。キャビキャビというよりもチャキチャキといった形容がよく似合う。実は熊大生の沖縄遠征は前期試験直前に行われたものである。下手をすると1年棒に振るかもしれないという不安の中での沖縄遠征。なかなかできるものではありません。(後の3人にとって試験は関係なかった)この様な積極的な活動で、最近天文台にもよく出没している。みなさんくれぐれも御用心を。

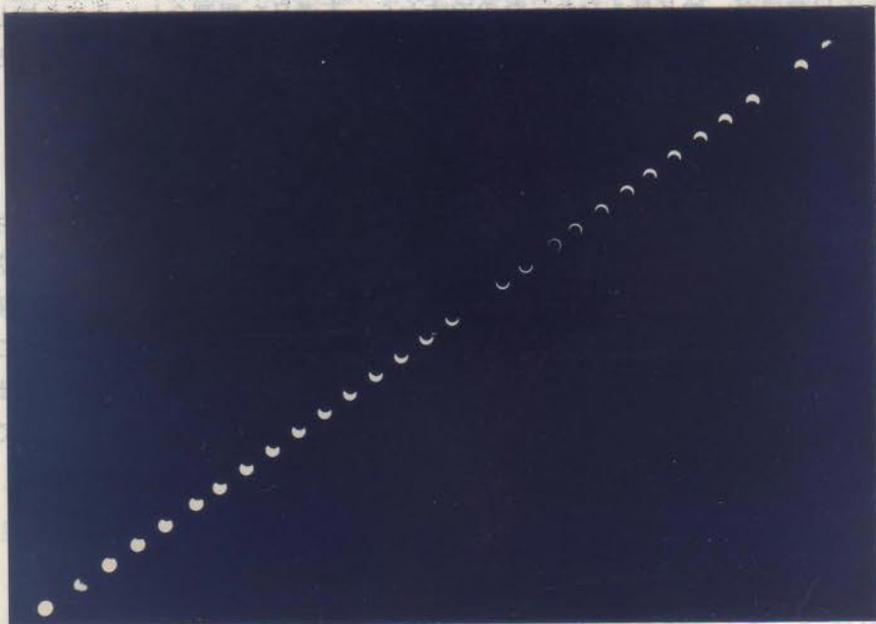
PRのページ 次はハワイの皆既日食だぞ

地元S旅行会社のPR不足のせいか、今回の沖縄ツアーは思ったよりも少なかった。6/ハレーの時のオーストラリアツアーはあんなに大勢出かけたのに。

そこでここで思いきってPRします。4年後の1991年7月11日朝方、ハワイで皆既日食が見られます。地元S旅行会社-九州産交では当然ツアーを企画するでしょうから、是非見たいと言う人は今からせつせとお金を貯めて、休暇を予約しておいて、みんなで観に行きましょう。

那覇から福岡までの飛行機からは、行きと違って雲しか見えず、熊本では日食はみえたのだろうか？と思いながら疲れた体で熊本へ帰ってきました。

天気には、はらはらさせられました。結局は金環を見ることができ、海水浴までして、今回の沖縄行きは大成功だったと思います。



撮影者

村上 智恵子

9:50 ~ 12:20

5分おきに撮影

f = 28mm

さて、写真撮影の結果ですが、ほとんど素人同然の私としては、大体満足しています。連続写真を撮るのは初めてで、わからないところは先輩方に教えてもらいました。ところどころ抜けていますが、これは雲のせいです。本当に惜しかったです。とにかく、私なんかを沖縄に連れて行ってくださった先輩方にとっても感謝しています。再度沖縄には行きたいと思います。

筆者紹介

熊大文学部史学科1回生。キャピキャピというよりもチャキチャキといった形容がよく似合う。実は熊大生の沖縄遠征は前期試験直前に行われたものである。下手をすると1年棒に振るかもしれないという不安の中での沖縄遠征。なかなかできるものではありません。(後の3人にとって試験は関係なかった)この様な積極的な活動で、最近天文台にもよく出沒している。みなさんくれぐれも御用心を。

PRのページ 次はハワイの皆既日食だぞ

地元S旅行会社のPR不足のせいか、今回の沖縄ツアーは思ったよりも少なかった。6/ハレーの時のオーストラリアツアーはあんなに大勢出かけたのに。

そこでここで思いきってPRします。4年後の1991年7月11日朝方、ハワイで皆既日食が見られます。地元S旅行会社-九州産交では当然ツアーを企画するでしょうから、是非見たいと言う人は今からせつせとお金を貯めて、休暇を予約しておいて、みんなで観に行きましょう。

タイトル通りのくもり空で、太陽の形は何か見えたものの、一番楽しみにしていた、木もれ日による日食像が、殆ど見えなかったのですから、不満足な観測会というべきでしょうか。前夜の雨とは打って変わって、かんばきな観測が出来たという、沖縄に比べると、大変さびしいものではありません。

やはり、努力する人たちに天は味方したのでしょうか。

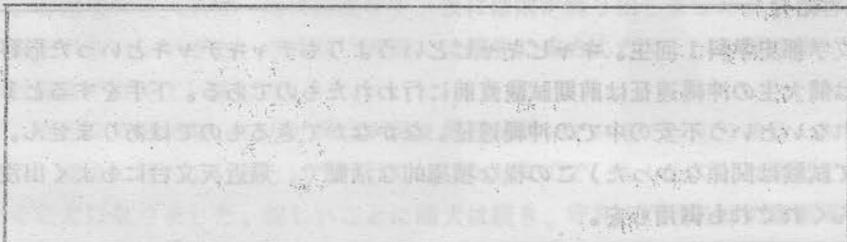
これからは“星を見る会”の会場に

秋分の日で休館日のため、屋外で開かれた博物館主催の“部分日食観望会”に、私たちの熊本県民天文台が協力するという形をとりました。その場所は、博物館の西側にある広場で、“熊本城三の丸市民の森”です。ここは一昨年、ハレーすい星の観測にチロ望遠鏡が来てくれた場所でもあります。また、博物館の“星を見る会”が、熊大理学部からここへ、10月からお引っ越しをすることになっています。隣には県営藤崎台球場があります。ナイターの照明が、どの程度、星の観察にさまたげになるか、少々気になるところですが……。

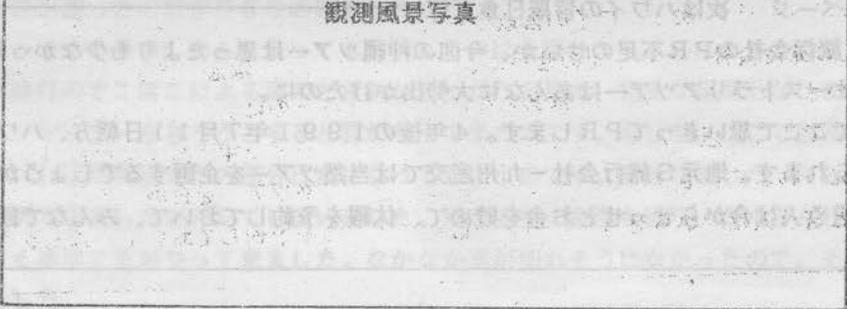
この場所は、市の公園緑地課で管理されているため、博物館から使用許可願が出され、観測の前日に、きれいに草刈りがなされていました。

木もれ日による日食像は見えなかったが

観測の方法はいろいろと考えられましたが、大勢の人が集まるということで、まづは望遠鏡を使った投影法による観察です。くもり日ということで、映りはぼんやりでしたが、立川さんや永原さんの努力で、大勢のお客さんに、かすかながら黒点も見てもらえたようです。望遠鏡は五藤光学の6.5センチ屈折です。



観測風景写真



タイトル通りのくもり空で、太陽の形は何とか見えたものの、一番楽しみにしていた、木もれ日による日食像が、殆ど見えなかったのですから、不満足な観測会というべきでしょうか。前夜の雨とは打って変わって、かんぺきな観測が出来たという、沖縄に比べると、大変さびしいものではありません。

やはり、努力する人たちに天は味方したのでしょうか。

これからは“星を見る会”の会場に

秋分の日で休館日のため、屋外で開かれた博物館主催の“部分日食観望会”に、私たちの熊本県民天文台が協力するという形をとりました。その場所は、博物館の西側にある広場で、“熊本城三の丸市民の森”です。ここは一昨年、ハレーすい星の観測にテロ望遠鏡が来てくれた場所でもあります。また、博物館の“星を見る会”が、熊大理学部からここへ、10月からお引っ越しをすることになっています。隣には県営藤崎台球場があります。ナイターの照明が、どの程度、星の観察にさまたげになるか、少々気になるのですが……。

この場所は、市の公園緑地課で管理されているため、博物館から使用許可願が出され、観測の前日に、きれいに草刈りがなされていました。

木もれ日による日食像は見えなかったが

観測の方法はいろいろと考えられましたが、大勢の人が集まるということで、まづは望遠鏡を使った投影法による観察です。くもり日ということで、映りはほんやりでしたが、立川さんや永原さんの努力で、大勢のお客さんに、かすかながら黒点も見てもらえたようです。望遠鏡は五藤光学の6.5センチ屈折です。



次に、ビデオによる観察で、これは私の担当です。ビクターのビデオ・カメラに300ミリ望遠レンズをつけ、ND400とND4をかぶせて、テレビ画面に映しました。それをお客さんに見てもらおうと同時に、録画も出来ました。とは言っても、面白かったのは画面を横切った四羽のハトと、雲の流れくらいでしょうか。

前もって用意したピンホールや、木の葉の間も、雲にさえぎられた弱い日光では、結構と言えるほどの日食像を作らずじまいでした。

好評だったサンフィルム

このように、不満足だった観測会でしたが、報道関係の方々のおかげで、大勢の人々で会場はにぎわいました。(ちょっと大げさなのは、写真でお判りでしょう)。富永君をはじめ、学生諸君に手伝ってもらい、200枚作ったサンフィルムは、瞬く間に配布を終わりました。配布の係りは安達さんと石原さん。このフィルムは、ミニコピーをコピナールで、5分間現像したものを2枚重ねてマウントし、熊本県民天文台の名前を入れたものです。生憎の曇天のため、2枚重ねのままでは暗過ぎましたが、マウントをはずして、1枚だけで見ると、ちょうど良かったようです。1枚の暗さは、ND400くらいだったでしょう。喜ばれたサンフィルムでしたが、来年3月18日の日食まで、しっかりと保存してくれる人は、何人いるのでしょうか。

そのほかの観測器材で、役に立ったのが、望遠レンズに付けて正立像をつくるペンタックスの接眼レンズです。135ミリ望遠に2倍テレプラスと、1.5倍パーローレンズをつけ、NDフィルターの400倍を2枚(曇天のため、使ったのは1枚だけ)と4倍を用意しました。これで、レンズの絞りを調節しながら見るのです。倍率は25倍ですから、ガイドは楽です。この望遠鏡の操作には、石原さんと山村(旧姓馬場口)さんが当たってくれました。

おわりに

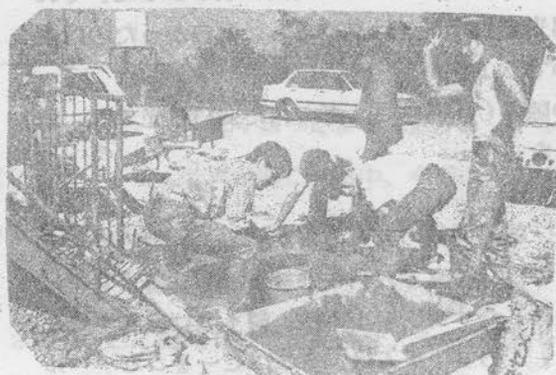
観島さんは、会場のビデオ記録や、手製の小型望遠鏡での観察。荒井先生や渡辺先生も応援に駆けつけて下さいました。三牧君は望遠鏡持参で参加してくれました。きっと、良い写真が撮れたことでしょう。

博物館の入たちも、50件をこえる問い合わせの電話応対や、会場準備その他で汗だくでした。それに、報道関係の方々もすごく熱心で、前日から特製のNDフィルターを準備されたテレビ局もあり、観測会を盛り上げてくれました。

皆さん、ご苦労さまでした。といったところで、午後1時半を過ぎ、5人の会員の皆さんと共にレストランへ……。



特別記事 観測明けの作業はきつかったちゃん



毎年恒例の草刈作業は前の夜から観測して天文台に泊まっていた学生十数人を、新品の草刈機を持って揚々と上がってきた艶島氏が叩き起こすところから始まった。時に9月20日の早朝8時のことである。

草刈機の威力はすさまじく、天文台中の草を艶島氏一人で刈ったかのような錯覚にとらわれて、ポーッとしている学生連中は今度は土建屋になってセメントをコネコネさせられた。左の写真で十分その雰囲気を感じて欲しい。

新運営委員紹介

前回の星屑で記事を書いてもらった三上真人君が10月18日の運営委員会の席で運営委員になりました。各曜日からの激しい争奪戦のあと、金曜日の運営委員に落ち着きました。金曜日の勝因は安達さんの持ってくる〇〇〇〇にあったようです。誰ですか！これで風雲たけし城がゆっくり見れる、と言っているのは！！



かんぱりますう
よろしくお願
いします。

インフォメーション

☆ブラッドフィールド彗星を見よう！！ 10月星を楽しむ会

8月11日にオーストラリアのブラッドフィールド氏が発見した「ブラッドフィールド彗星1987s」が10月中旬現在、6等程度まで明るくなってきました。小林寿郎氏の観測によりますと尾も東のほうへ1°程出ているということです。

10月24日の星を楽しむ会はこの彗星を見ることにします。彗星を見たい会員の方は午後6時迄に天文台へおこしてください。遅く来たら、お客さんとかち合ってゆっくり見れませぬぞよ。

by 高田

☆遠征観望会（耐寒観望会？ 従業員慰安観望会？）のお知らせ

遠征観望会の場所が決まりました。やっぱりといおうか、大方の予想通り 清和村井無田高原に決まり！！他県から観測に来る人は阿蘇などに行くが、ほんとの通は井無田を選ぶ！！ナンテネ。食事や宿泊は近くの公民館を使用します。詳細は星屑10月号でお知らせします。あっ、そうそう期日は知ってるでしょうね？ 11月22、23日、1泊2日ですよ！この日はみんな井無田に集合！！何年ぶりのことですから。

編集後記 発送が遅れたバチが当たったのか書くスペースがなくなったよー

熊本県民天文台機関誌「星屑」 1987年9月号 通巻153号
 発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県下益城郡城南町藤山
 TEL 0964-28-5060
 熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古京町3番2号 熊本市博物館内
 TEL 096-324-3500
 振替口座 熊本8-24463
 熊本県民天文台事務局
 編集担当 Y. TAKATA